



## 2023年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年10月13日

上場会社名 ティアンドエス株式会社 上場取引所 東  
コード番号 4055 URL <https://www.tecsvc.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役執行役員社長 (氏名) 武川 義浩  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員業務本部長 (氏名) 木下 洋 TEL 045-263-8286  
四半期報告書提出予定日 2023年10月13日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年11月期第3四半期の業績（2022年12月1日～2023年8月31日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年11月期第3四半期	2,520	7.8	461	9.0	465	7.9	326	7.7
2022年11月期第3四半期	2,338	18.4	423	52.1	431	51.9	302	51.7

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年11月期第3四半期	43.10	42.78
2022年11月期第3四半期	39.94	39.40

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年11月期第3四半期	2,378	2,015	84.8
2022年11月期	2,281	1,733	76.0

(参考) 自己資本 2023年11月期第3四半期 2,015百万円 2022年11月期 1,733百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年11月期	—	0.00	—	6.00	6.00
2023年11月期	—	0.00	—		
2023年11月期（予想）				6.55	6.55

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年11月期の業績予想（2022年12月1日～2023年11月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,700	13.6	700	13.3	703	12.3	495	12.5	65.46

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料P. 6「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3) 四半期財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年11月期3Q	7,633,200株	2022年11月期	7,633,200株
② 期末自己株式数	2023年11月期3Q	54,800株	2022年11月期	86,000株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年11月期3Q	7,565,192株	2022年11月期3Q	7,580,576株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

四半期決算補足説明資料はT D n e tで同日開示しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第3四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(会計方針の変更) .....	6
(セグメント情報) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、ウィズコロナの各種政策の下、緩やかな景気の持ち直しがみられるものの、電子部品・デバイスの生産は減少するなど、一部に弱さがみられました。半導体の供給不足や資源価格の上昇、為替相場の変動など先行き不透明な状況が続いておりますが、企業活動においては、在宅勤務やオンラインミーティングの活用、クラウドサービスの活用、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進など、ITの重要性や業務のIT化の流れはますます拡大している状況であります。

当社の事業は、システム開発及びその関連サービスの単一セグメントですが、事業の構成をソリューション、半導体、先進技術ソリューションの3カテゴリ構造とし事業展開しております。上記のような経済環境のなか「ソリューションカテゴリ」では産業領域に特化せずIT人材の供給を継続し、IT開発を支える事業の拡大を図ってまいりました。「半導体カテゴリ」では工場内システムの保守及び運用サービスや、ITヘルプデスク等半導体工場のITインフラストラクチャー運用支援全般の事業の拡大を図ってまいりました。「先進技術ソリューションカテゴリ」ではAI関連製品を開発中のお客様向けのソリューション提供の拡大を図ってまいりました。

当第3四半期累計期間におけるカテゴリ毎の経営成績は次のとおりであります。

#### ①ソリューションカテゴリ

当第3四半期累計期間の売上高は、1,869,932千円（前年同四半期比8.4%増）となりました。

主要取引先からの受託開発案件の受注が引き続き堅調に推移しました。特に、主要取引先からの大型システム開発案件が続いていることが寄与しました。

#### ②半導体カテゴリ

当第3四半期累計期間の売上高は、508,416千円（前年同四半期比17.3%増）となりました。

半導体工場における保守・運用サービスにおいて、主要取引先からの継続的な受注が順調であることに加え、さらなる増員要請があったことにより従事するエンジニア数が堅調に推移しました。

#### ③先進技術ソリューションカテゴリ

当第3四半期累計期間の売上高は、142,197千円（前年同四半期比21.0%減）となりました。

前期首にあった大型案件が前年同期に売上計上された反動で、当四半期の売上高が減少しておりますが、前期から継続している外観検査システム開発が順調に推移いたしました。

この結果、当第3四半期累計期間の経営成績は、売上高2,520,546千円（前年同四半期比7.8%増）となりました。従業員に対する業績連動賞与13,000千円の引当計上を吸収し、営業利益461,200千円（前年同四半期比9.0%増）、経常利益465,913千円（前年同四半期比7.9%増）、四半期純利益326,037千円（前年同四半期比7.7%増）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は2,232,095千円となり、前事業年度末に比べ121,327千円増加いたしました。これは主に四半期純利益の計上等により現金及び預金が115,657千円、売上高の増加に伴い売掛金及び契約資産が29,495千円増加し、ファクタリング債権の回収に伴い未収入金が42,259千円減少したことによるものであります。固定資産は145,907千円となり、前事業年度末に比べ24,824千円減少いたしました。これは主に冬季賞与の支給に伴い繰延税金資産が24,343千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は2,378,002千円となり、前事業年度末に比べ96,502千円増加いたしました。

#### (負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債は306,927千円となり、前事業年度末に比べ191,306千円減少いたしました。これは主に税金の支払に伴い未払法人税等が102,693千円、冬季賞与の支給に伴い未払費用が42,366千円、未払消費税等が29,687千円、賞与引当金が26,546千円減少したことによるものであります。固定負債は55,618千円となり、前事業年度末に比べ5,855千円増加いたしました。これは退職給付引当金が5,855千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は362,545千円となり、前事業年度末に比べ185,451千円減少いたしました。

#### (純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は2,015,457千円となり、前事業年度末に比べ281,953千円増加いたしました。これは利益剰余金が四半期純利益の計上により326,037千円増加し、配当により45,283千円、自己株式処分差損の計上により40,764千円減少したこと、自己株式の処分により自己株式が41,964千円減少したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想については、2023年1月13日の「2022年11月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更ありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年11月30日)	当第3四半期会計期間 (2023年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,405,466	1,521,124
売掛金及び契約資産	322,204	351,699
仕掛品	22,558	34,631
未収入金	349,345	307,085
その他	12,892	19,254
貸倒引当金	△1,700	△1,700
流動資産合計	2,110,767	2,232,095
固定資産		
有形固定資産	20,603	20,600
無形固定資産	2,159	1,744
投資その他の資産	147,970	123,562
固定資産合計	170,732	145,907
資産合計	2,281,500	2,378,002
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	136,096	145,450
未払法人税等	130,388	27,694
賞与引当金	67,868	41,322
その他	163,879	92,460
流動負債合計	498,233	306,927
固定負債		
退職給付引当金	49,763	55,618
固定負債合計	49,763	55,618
負債合計	547,996	362,545
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	340,783	340,783
資本剰余金	266,662	266,662
利益剰余金	1,241,774	1,481,764
自己株式	△115,717	△73,753
株主資本合計	1,733,503	2,015,457
純資産合計	1,733,503	2,015,457
負債純資産合計	2,281,500	2,378,002

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年8月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)
売上高	2,338,440	2,520,546
売上原価	1,620,367	1,743,691
売上総利益	718,072	776,854
販売費及び一般管理費	294,799	315,654
営業利益	423,273	461,200
営業外収益		
受取利息	2	5
助成金収入	—	225
補助金収入	7,643	4,969
その他	1,286	63
営業外収益合計	8,932	5,263
営業外費用		
株式交付費	60	30
支払手数料	406	520
その他	0	0
営業外費用合計	466	550
経常利益	431,739	465,913
特別損失		
固定資産除却損	321	—
特別損失合計	321	—
税引前四半期純利益	431,418	465,913
法人税、住民税及び事業税	118,483	115,532
法人税等調整額	10,199	24,343
法人税等合計	128,682	139,875
四半期純利益	302,735	326,037

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年8月31日)

当社の事業は、システム開発及びその関連サービスの単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第3四半期累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)

当社の事業は、システム開発及びその関連サービスの単一セグメントであるため、記載を省略しております。